

園だより春休み

主は、あなたたちのたどる旅路を見守っておられる。

土師記 18章 6節

小春日和の日が有ったかと思うと、春冷えの日が有り、短い3月の日々の天候は目まぐるしい変化がありました。そんな中、園庭の白木蓮は蕾がぐっと膨らみ、花も少しずつ咲き始めました。春は来ています。

穏やかな年度末の最後の日々を子どもたちとゆっくりと願っておりましたが、新型コロナウイルスの影響で慌ただしい日々となりました。行政の意向にしっかりと沿いつつも、何を大切に幼稚園の日々を、子どもたちの環境を、整えるべきか悩んだ日々ともなりました。保護者の皆様にも多くのご理解とご協力を頂き、深く感謝申し上げます。その様な日々でしたが、おかげさまで子どもたちにとっての年度末の幼稚園の日々は例年と変わらない、穏やかで子どもたちの想いに溢れた日々となりました。

3月号の園だよりでもお伝えさせて頂いた通り、年中さんから年長さんへ、年長さんから年中さんへ、子どもたちそれぞれの思いのこもったプレゼントを贈り合い、笑顔が溢れました。年少さんと年長さんは歌のプレゼント交換、年少さんからかわいいお花の首飾りが年長さんに掛けられたときのお互いの嬉しそうな笑顔。様々な想いが行き交う日々でしたが、沢山の笑顔を大事に過ごした3月の日々に感謝でした。今年度スタートの「園だより4月号」で、『「生きる力」「伸び行く力」が備えられている子どもたちとその力を信頼し、子どもたちがその自らの力を十分に発揮し、幼稚園生活がどの子どもたちにとっても「いのちを輝かせる日々」となるよう、教職員一同それぞれの立場から、心をかけ、想いに寄り添い、支え、子どもたち一人ひとりの成長を見守って参ります。「遊びの生活」が始まります。その遊びの中で子どもたちはどれほどに学び、想いを巡らせ、体を動かし、様々な育みが成されることでしょう。保育者はその為にすべての環境を整え、想いを注ぎます。』と述べさせて頂きました。

振り返ってみますと、様々な出来事、様々な想いの交わりがあった子どもたちとの日々の中、幼稚園の想いが精一杯注がれ、神様から頂いたそれぞれの「いのち輝くとき」を主体的に生きるための「土台を育む」一年間でありましたこと、すべてのときが恵みでありましたこと、本当に嬉しく思っております。今年度も、保護者の皆様に沢山のお支えを頂きながら過ごして来られましたこと、心から感謝申し上げます。まだまだ落ち着かない日々が続きますが、穏やかな春休みをお過ごしになられますことお祈り致します。

園長 駿河 幸子